

青雲の志

岩手県立花北青雲高等学校
校長通信 第50号
令和5年1月13日発行
文責 校長 佐々木 伸良

「兎年」 努力の積み重ね⇒飛躍の1年に

年末年始は、どのように過ごしましたか。家の手伝いやアルバイトで忙しい日を送った人もいることでしょう。スーパーで懸命に働いている姿を見かけました。学校では得られない経験をしたことで、自分の視野を広める良い機会となった人もいます。

さて、今年の箱根駅伝は、稀に見る壮絶な展開でした。見る側にとっては、非常にワクワクさせる状況が続き、最初から最後まで見てしまいました。

波乱は一区からありました。

関東学生連合チームの育英大学4年の新田選手が、集団から抜け出すやいなや後続の集団を引き離し、先行逃げ切りを図った。多くの人が育英大学ってどこの大学かと思ったことでしょう。群馬県にある大学で、前橋育英高校と関連のある大学です。私もすぐに調べてみました。おかげで、育英大学の公式サイトが一時フリーズしたそうです。テレビに映る彼の姿が、育英大学を大いにアピールすることになったのです。最後は、失速し、中継地点手前で二人に抜かれたものの、三番目でタスキをつないだ姿は、あっぱれでした。

実力のある選手がたくさんいる中で、独り集団を抜け出す勇気と強豪校や伝統校の選手をあわてさせた彼の走りは、観客の心をつかんだ。彼の大学での陸上競技の最後は、最高のフィナーレとなった。

その後は、平成の常勝軍団駒澤大学、名門復活を掲げている中央大学、大会連覇を狙う令和の常勝軍団と言われる青山学院大学の競り合いが続き、最初から最後まで安定した走りタスキをつないだ駒澤大学が優勝した。出場した10人の選手が、期待通りの走りを見せるかが、勝敗を分けたが、この期待通りに実力を発揮することが、いかに難しいことかを知らしめたのも今大会の特徴だった。

当然、どの選手も部内の選考レースに勝ち、この大会に備えて努力してきている。しかし、それでも思うように走れなかった選手もいる。当日変更で出られなかった選手もいる。昨年、区間記録を出していても出られない選手もいる。四年生だからという温情もない。この大会に出場しようとしたすべての選手が、素晴らしい選手なのだ。

テレビ中継が終わるとなぜかすがすがしい気持ちになり、今年も頑張ろうという気になるのは、私だけだろうか。

目標に向かって、努力の継続が自分の成長につながる。今年飛躍の1年だったと思えるように一日一日を大切にしよう。

今日から、学校が始まります。三年生は、卒業式に向かって、一、二年生は、終業式に向かって、互いのタスキをつないで突っ走りましょう。

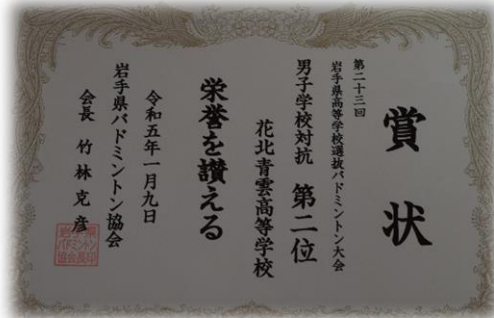
【1月13日(金) 始業式 校長挨拶】

1/9(月) 岩手県高等学校選抜 バドミントン大会 女子 優勝 男子 準優勝

1月9日(月)、北上市総合体育館において、第23回岩手県高等学校選抜バドミントン大会が開催され、本校の男子は準優勝、女子は優勝しました。東北選抜や全国選抜を控え、各校が順調な仕上がりを見せているとのことでした。



女子 優勝



男子 準優勝

12/15(木)1年生 企業等見学会の実施



アイオー精密様

キャリア教育の一環として、地元企業や学校を訪問し、個々の進路決定に取り組んでいます。